

## 第2回 香川レインボー映画祭 実施報告書

香川レインボー映画祭実行委員会

代表：藤田博美

(第2回香川レインボー映画祭実行委員長)

〒760-0032 高松市本町 4-12-205 代表電話番号：087-811-7665

映画祭メールアドレス：kagawa\_rff@yahoo.co.jp

映画祭ホームページ：http://www.kagawa-rff.org/

## 1. 実施概要

日 程	2006年11月25(土)・26日(日) 2日間
会 場	e-とぴあ・かがわ BBスクエア (サンポート高松シンボルタワー4階)
料 金	1プログラム1000円(当日・前売とも)、2枚セット1800円(前売のみ)
主 催	香川レインボー映画祭実行委員会
後 援	高松市/高松市教育委員会/PROUD in 香川
内 容	LGBTI等、性の多様性に関する映画を上映 公募作品を含め、国内外のショートムービーで構成(6プログラム/13作品)
来場ゲスト	大木裕之監督【カム】/尾辻かな子大阪府議会議員/RobertoMaxwell【Chapter One】/山岡大祐監督【みかとせいじゅん】(50音順)
協 賛	NPO 法人アカー/ESTO/QWRC/作品社/SPIRAL/jam/ダイク♀♀jam /DEAR/DENcafe/ファンタジー/Bar次元/pray. (50音順)
協 力	東京国際レズビアン&ゲイ映画祭/関西 Queer Film Festival

## 2. プログラム内容

日 時	プ ロ グ ラ ム	
25日(土) 16:00~	Aプログラム	誓いますか?/誓います
17:30~	Bプログラム	カム(監督トークあり)
		ピースピーチ
		東京のどこかで
		梵天
26日(日) 11:00~	Cプログラム	プリカちゃん
		トランス家族
13:00~	Dプログラム	パレード
		みかとせいじゅん(監督トークあり)
		Chapter One(監督トークあり)
15:00~	Eプログラム	100%Women
		プリカちゃん
		ケート・ボーンスタイン
17:00~	Fプログラム	ビーイング・ノーマル
		誓いますか?/誓います(尾辻かな子トークあり)

※12月18、24日(香川)、22日(高知):「プリカちゃん」各1回ずつ追加上映を実施

### 3. 観客動員

Aプログラム：32人（座席稼働率25%）

Bプログラム：36人（座席稼働率28%）

Cプログラム：20人（座席稼働率15%）

Dプログラム：29人（座席稼働率22%）

Eプログラム：40人（座席稼働率31%）

Fプログラム：37人（座席稼働率28%）

延来場者：194人（座席稼働率25%）

\*座席数は130席として計算。

チケット売り上げ枚数：前売券84枚、当日券132枚、合計216枚

※「プリカちゃん」追加上映入場者数（鑑賞料：500円）

12月18日香川(サンフリー高松) 5人

12月22日高知(ソーレ) 10人

12月24日香川(サンフリー高松) 2人

延来場者数：17人

### 4. 広報活動

#### 1) チラシ

・チラシ：4000枚（A4サイズ：両面カラー）

・チラシ簡易版：300枚（A5サイズ：片面カラー）

・フライヤー：4000枚（A6サイズ：片面カラー、裏面白黒広告）

中四国を中心として関連団体、イベント、飲食店、ショップ、公共施設、大学等で配布。

#### 2) ポスター

200枚（A2サイズ：片面カラー）チラシと共に配布。

#### 3) ウェブサイト

公式HP <http://www.kagawa-rff.org/>

#### 4) 新聞掲載（50音順）

朝日新聞香川版、高知新聞、四国新聞、毎日新聞香川版、リビングたかまつ

#### 5) 雑誌掲載（50音順）

ASA12月号、あわわ11月号、komachi12月号、TJかがわ12月号、タブー（三和出版）

#### 6) その他

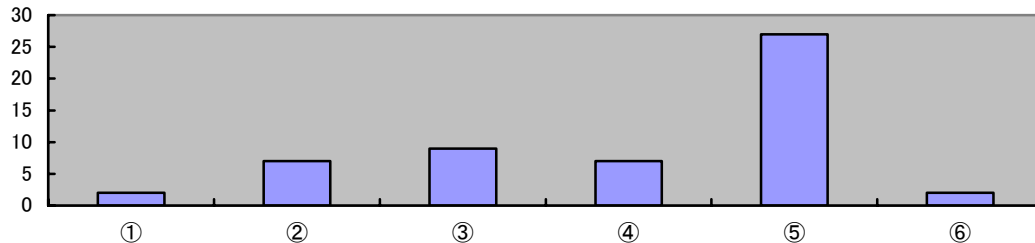
FM高松、香川県庁内記者室

### 5. アンケート結果

回答数 50名

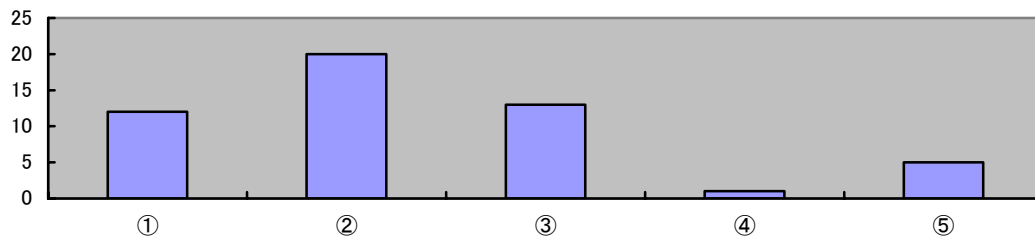
Q1：この映画祭を何でお知りになりましたか？（複数回答有り）

- ①雑誌 ②新聞 ③インターネット ④ポスター・チラシ ⑤友人から ⑥その他

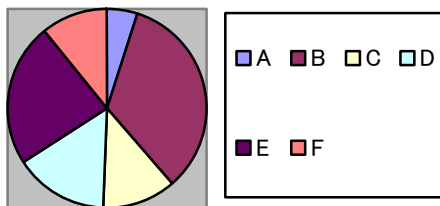


Q2：映画祭に来場されたきっかけは何ですか？

- ①見たい映画があったから ②友人に誘われたので  
 ③ジェンダーやセクシャルマイノリティをテーマにしたイベント全般に興味があるから  
 ④東京・関西の映画祭に行っていたから ⑤その他



Q3：プログラムでご覧になったもの



#### \*印象に残ったプログラムの感想（抜粋）

- ・ 自分たちの人権を勝ち取るためにはまず周りの人に存在を知ってもらうことが必要であると実感しました。
- ・ 今まで知らなかったことなどいろいろ多くを知れてよかったです。
- ・ ゲイやレズビアンの人たちが「結婚の平等」がないせいで不利益をこうむっているのか、具体的にわかった。
- ・ いろんな種類の作品を見れてよかったです。「ビーイングノーマル」は特に良かったです。韓国の作品というのがびっくりしました。日本以上に、こういう映画はタブーなような気がし

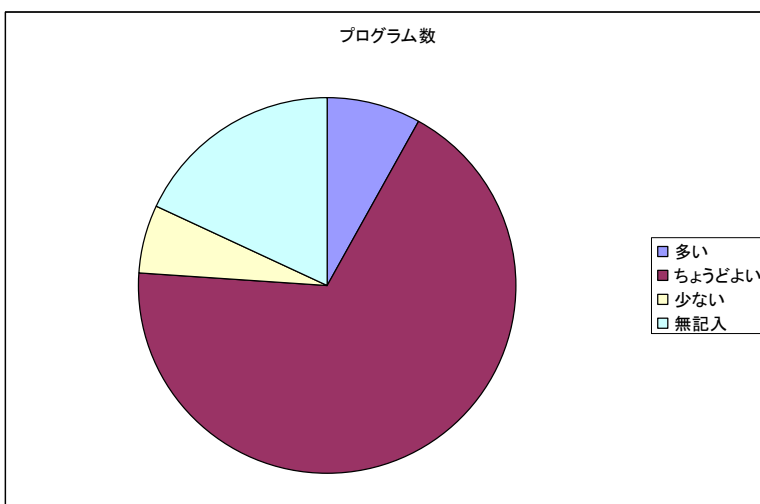
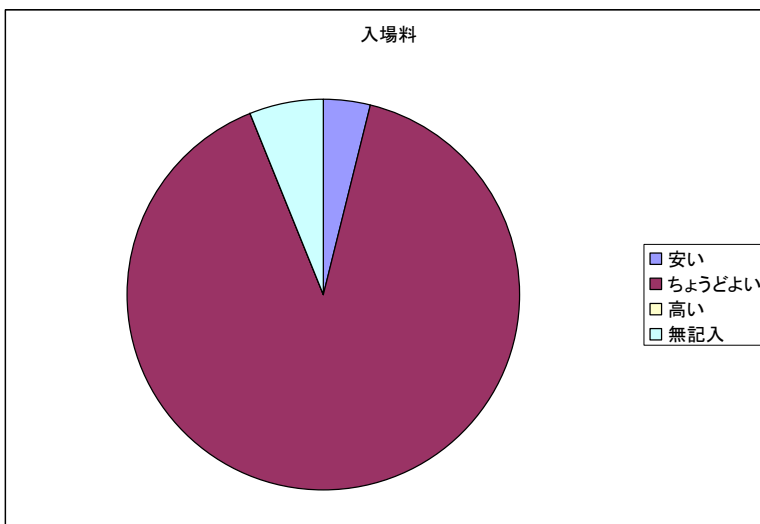
ていたから。

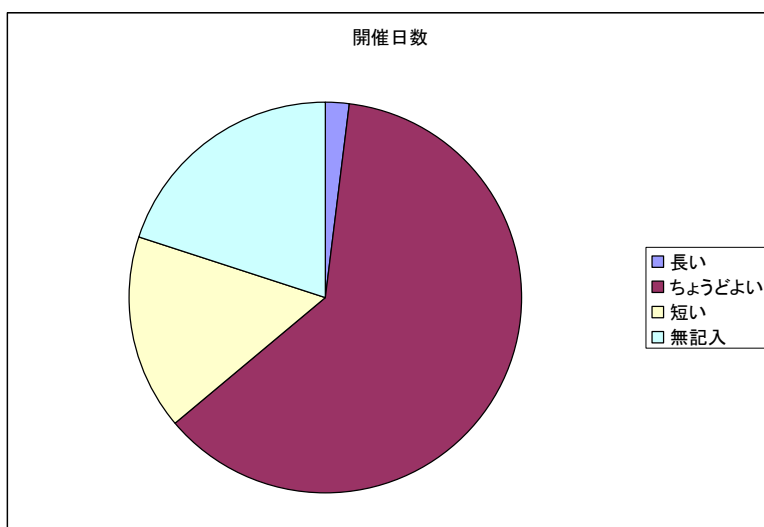
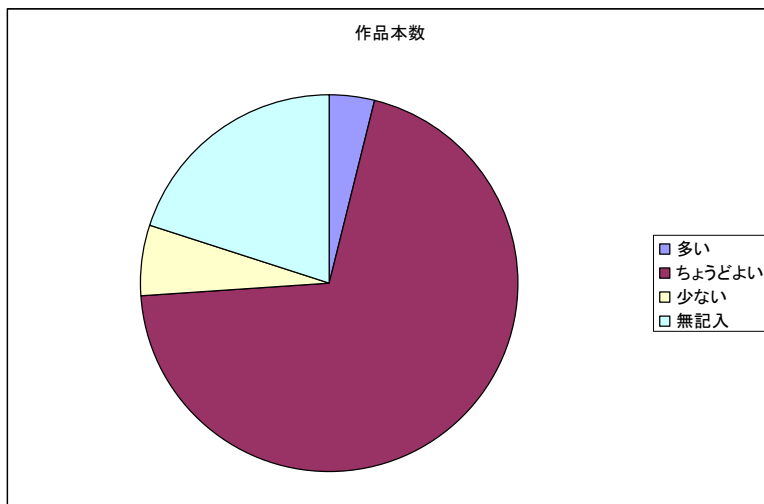
- ・プリカちゃん・マチコさんがおもしろかった/ビーイングノーマル監督とインターセックスの人と理解しあうのは難しかったが、さいご、平凡に生きる闘うと言っていて、ほっとした。

**\*プリカちゃん上映会での感想 (抜粋)**

- ・ とってもかわいい映画で、楽しかったです。こんな風に楽しく、笑いながら観て考えていけるといいですね。特に、挿入歌やエンディングの沢ともえさんの曲を使っているのが良かったです。
- ・ 効果音良かった。マリちゃんの声が良かった^^彼女が好きでたまらない時の気持ちを思い出しました。
- ・ 楽しい映画でした。もっと多くあったら、家で2人で見てると思います。またあればぜひ来たいです。

**Q4：映画祭の開催方法について**

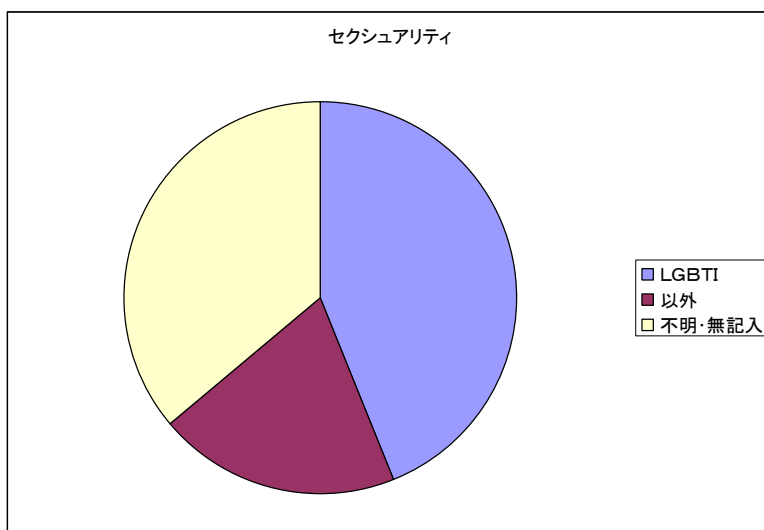
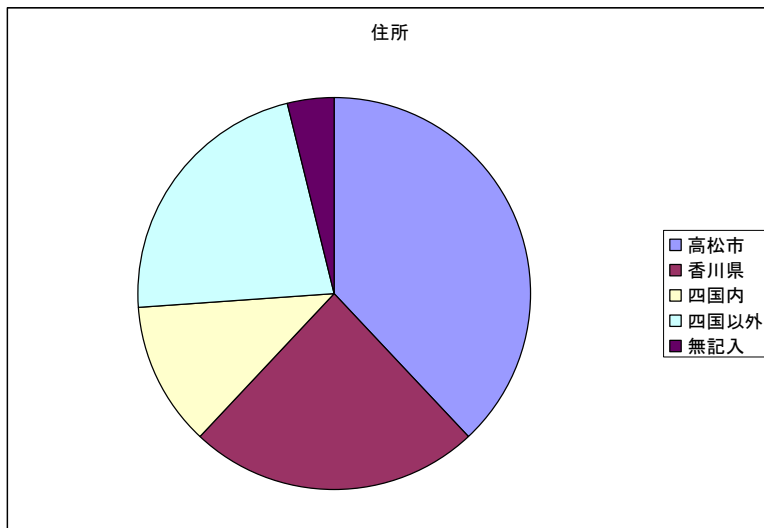
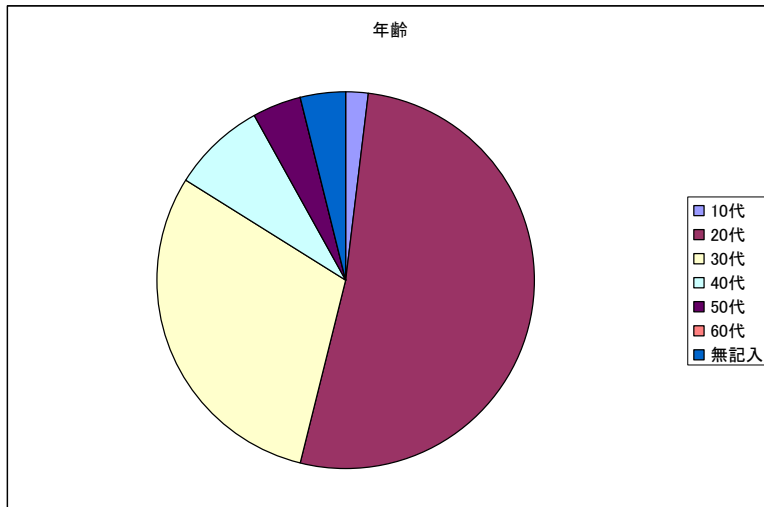




**Q5：映画祭へのご意見（抜粋）**

- ・ 監督さんのお話が聞けてよかったです。今後も監督さんの作品を見たいと思います。
- ・ 内容はどの作品も良かったのだが、プログラムが多かったのも、時間の長さに少し疲れました。
- ・ 会場全体が温かい雰囲気良かったです。
- ・ 集客力が少し弱かったみたいですが、長期休暇中などに開催できたらいいと思います。素晴らしい映画なので、もっと多くの人に見て頂きたいです。
- ・ もっとクオリティを上げてほしいです。また見に来ようと思えたり、作品によってマイノリティの理解を上げるのならば、それは必要だと思います。
- ・ これからも香川で続けて欲しい

Q6：観客について



## 6. 会計報告

## 2006年香川レインボー映画祭実行委員会 会計決算報告

(2006年2月1日～2006年12月31日)

	科目	決算額
収入	前回繰越	¥117,939
	チケット売上:前売券、当日券	¥218,600
	カンパ収入:個人、団体からのカンパ	¥47,785
	協賛収入:お店、団体からの協賛	¥85,000
	物品売上:会場での書籍、グッズ販売等	¥25,900
	その他収入:利息	¥3
	収入合計	¥495,227
支出	会場費:上映会場、機材費込み	¥61,800
	作品上映料等:作品料、作品送料、ゲスト出演料等	¥245,060
	広告宣伝費:HP、チラシ、ポスター制作費、配布経費等	¥135,053
	物品仕入れ:会場での書籍、グッズ販売等	¥14,145
	その他:事務用品、記録費、手数料等	¥62,369
	支出合計	¥518,427
収支	繰越金:次回の実行委員会へ繰越	¥-23,200

## 7. 総括

第2回香川レインボー映画祭は、初の2日間連続開催、公募を含む国内外からのショートムービーを取り扱うなど、前年になかった試みに取り組んだものであった。また、今回初めて、高松市および高松市教育委員会の後援を得ることにより、前回の手探り、無名のイベントから前進し、少なからず公からの認知を得ることに成功したといえるだろう。

2006年は多くのセクシュアリティ関連の映画祭が各地で開催された年でもあった。歴史ある東京、昨年成功を収めた関西を始め、青森、京都、札幌といった各地での取り組みは、全国レベルでのセクシュアリティ関連の映画祭が求められている、またこのような映画祭を興そうという機運が熟してきていることが伺える。

一方で、このように全国区に拡大した、セクシュアリティ関連映画祭同士の横の連携についての必要性、という課題が見えてきた。というのも、東京や関西といった大都市に比べ、香川のような一地方都市が独力で、一定のレベルを保持して映画祭開催を維持していくことは、困難が伴うからである。2回目を迎えた当映画祭では、映画祭開催を維持していくにあたって多くの課題に直面し、人材管理、作品収集、集客、運営プロセスのひとつひとつに超えなければならないハードルを見た。これらの課題をふまえ、全国の志を同じくする映画祭の連帯による、安定した上映作品の供給システム構築と、映画祭開催ノウハウの共有を提案したいのである。これらの横の連帯は、地方都市における映画祭開催を支援するものとなるだろう。また、それだけでなく、これらの一連の機運を全国で循環させる、その礎となると思われる。

今回、関西や東京から多くの作品情報を提供いただき、ご協力いただいたこと、また、青森映画祭より励ましの言葉をいただいたことは、次につながる貴重な経験であり、本当に感謝の気持ちで一杯である。高松市、高松市教育委員会の後援をはじめ、多くの協賛や協力をいただいたことにも、深く感謝の意を申し上げる。また、二日間力を尽くした28名のスタッフの健闘をたたえたい。我々は、この経験をふまえて、上記のような提案を実現させていかねばならないだろう。そして、今回も寄せられた多くのアンケートによる観客の暖かい激励の言葉から、来年度にむけて、気持ちを新たに踏み出したいと思うところである。